

伊勢崎市老人クラブ活性化への提言

伊勢崎市老人クラブ連合会

伊勢崎市社会福祉協議会

伊勢崎市

令和6年3月

目 次

はじめに	
1 老人クラブとは	1
2 老人クラブの現状	
2-1 伊勢崎市の老人クラブの現状	2
2-2 群馬県の老人クラブの現状	4
3 老人クラブの実態	
3-1 連合会役員聞き取り調査	5
3-2 老人クラブ会長アンケート	5
3-3 高齢者実態調査アンケート	7
3-4 群馬県内 12 市自治体老人クラブ担当者アンケート	8
3-5 令和 5 年度 未来共創ワークショップ	9
4 老人クラブを取り巻く状況	11
5 老人クラブが抱える問題点	12
6 老人クラブ活性化への取り組み	
6-1 連合会・伊勢崎市社会福祉協議会の取り組み	13
6-2 伊勢崎市の取り組み	16
おわりに	

はじめに

伊勢崎市は、令和 5 年 4 月に「伊勢崎市高齢者が生き生きと活躍できる社会の実現の推進に関する条例」を施行し、就労をはじめ、生涯学習、地域活動、世代間交流などの個人の希望と適性に合った多様な分野において、高齢者の方々が様々な経験を通じて習得した知識と技能を最大限に発揮し、地域社会の担い手として、より長く元気に活躍できる社会の実現を推進しております。

老人クラブは、人と人とのふれあいを大切にする仲間づくりと健康づくり、友愛活動を通じた助け合いの地域づくり、ボランティア活動を通じた地域のまちづくりに大きく貢献する取組を推進してきました。

現在の社会状況をみると、人生 100 年時代といわれる長寿社会を迎え、人口は減少しているのに高齢者数は増え続けているという状況が生まれています。また、核家族化を反映して単身高齢者や高齢者のみ世帯が増加し、人間関係の希薄化に伴い、他者とのコミュニケーションや助け合いの機会や時間を失い、孤立化している高齢者が増えてきています。住み慣れた地域の中で安心・安全に暮らすことが難しい社会になりつつあります。

このようななか、老人クラブは、地域における支えあい活動を行う組織であることから、社会に大いに求められているところであり、その存在意義は非常に高いものです。

地域の老人クラブが高齢者にとって心のよりどころとなるよう、そして明るく元気に楽しい活動を通じて、その存在意義を改めて地域の皆さんに知っていただき、地域から認知された取り組みを進めていけるよう、伊勢崎市老人クラブ連合会、そしてその事務局である伊勢崎市社会福祉協議会と伊勢崎市が連携し、「伊勢崎市老人クラブ活性化への提言」を作成しました。

1 老人クラブとは

老人クラブとは、地域を基盤とする高齢者の自主的な組織です。

活動の目的

- (1) 仲間づくりを通して、生きがいと健康づくり、生活を豊かにする楽しい活動を行う。
- (2) その知識や経験を生かして、地域の諸団体と共同し、地域を豊かにする社会活動に取り組む。
- (3) 明るい長寿社会づくり、保健福祉の向上に努める。

会員

入会を希望する概ね 60 歳以上の方を対象。

組織

日常的に声をかけ合い、歩いて集まることのできる小地域の範囲で組織しています。

運営

- (1) 会員本意の自主的かつ民主的な運営をしています。
- (2) 老人クラブ活動の財源は、会員の会費によってまかなうことを基本とします。

老人クラブは、昭和 38 年 8 月に施行された「老人福祉法」において、老人福祉を増進するための事業を行う者として位置付けられています。

(全国老人クラブ連合会 HP から抜粋)

伊勢崎市は、老人クラブ連合会(以下「連合会」と)と単位老人クラブ(以下「老人クラブ」と)に対し、会員数に応じて補助金を支給しています。

2 老人クラブの現状

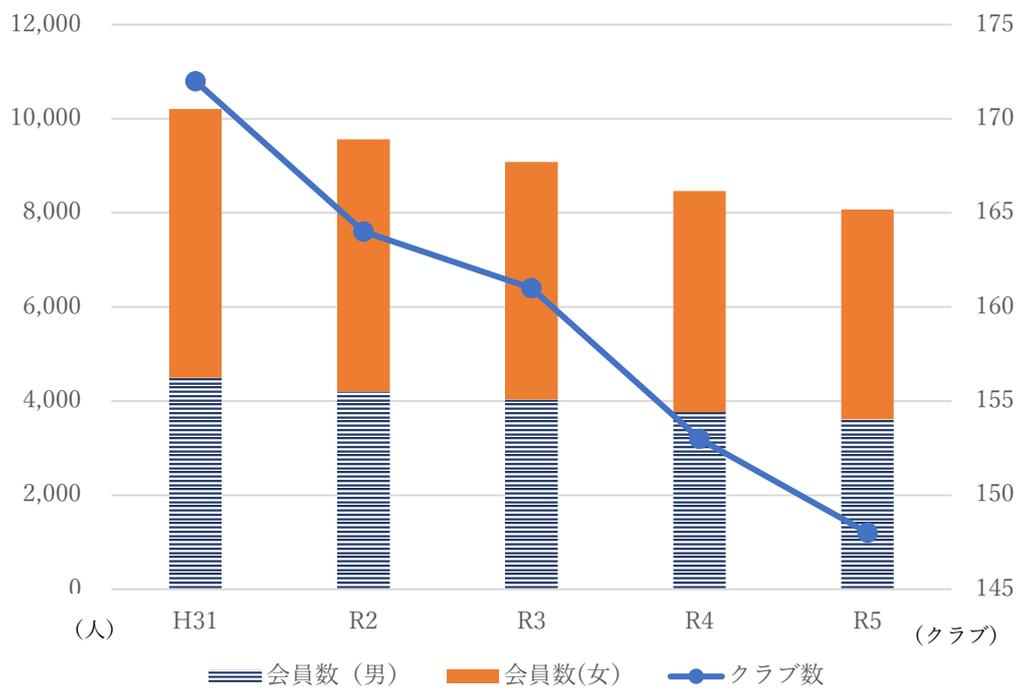
2-1 伊勢崎市の老人クラブの現状

(1) 市全体の会員数、老人クラブ数、加入率

	全人口 (人)	60歳以上人口 (人)	会員数(人)		クラブ数	加入率 (%)	
			うち男性会員	うち女性会員			
H31	213,213	64,506	10,205	4,492	5,713	172	15.8
R2	213,167	64,973	9,560	4,203	5,357	164	14.7
R3	212,946	65,323	9,084	4,030	5,054	161	13.9
R4	212,178	65,724	8,462	3,770	4,692	153	12.8
R5	211,963	65,964	8,069	3,610	4,459	148	12.2

(各年4月1日現在)

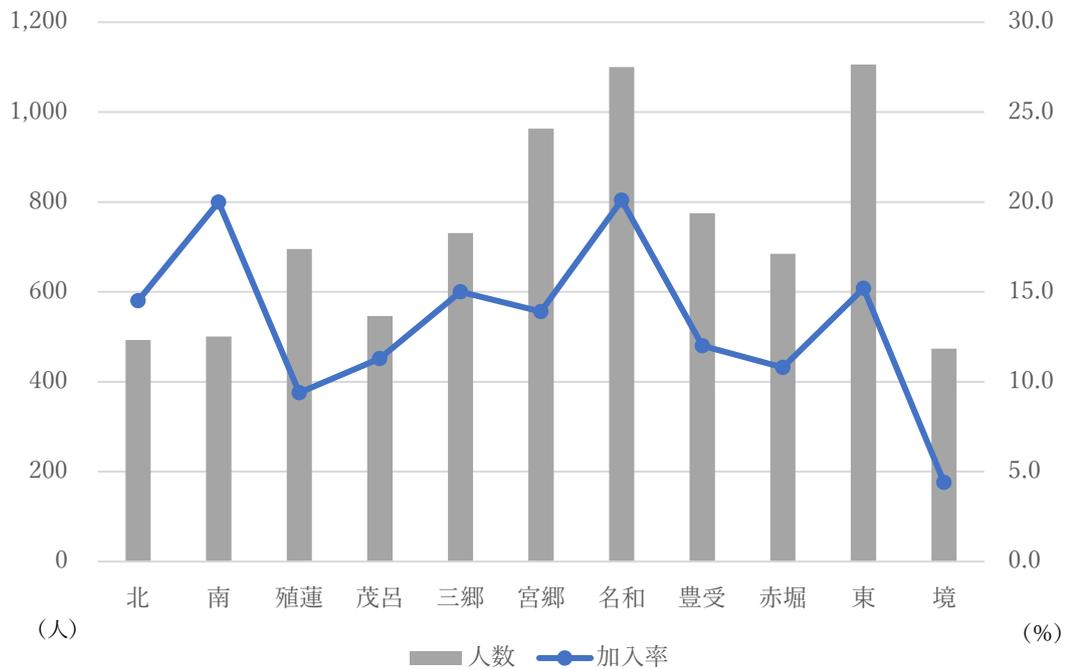
(2) 会員数と老人クラブ数の推移



(3) 地区別老人クラブ数・会員数

(令和5年4月1日現在)

地区名	クラブ数	会員数(人)	60歳以上人口(人)	加入率(%)	全人口(人)
北	11	493	3,380	14.5	9,254
南	10	501	2,505	20.0	6,747
殖蓮	13	695	7,340	9.4	21,029
茂呂	7	546	4,808	11.3	17,522
三郷	14	731	4,870	15.0	14,667
宮郷	13	963	6,897	13.9	26,861
名和	21	1,100	5,464	20.1	17,205
豊受	13	775	6,413	12.0	18,068
赤堀	13	685	6,286	10.8	24,139
東	19	1,106	7,257	15.2	27,089
境	14	474	10,744	4.4	29,382
全体	148	8,069	65,964	12.2	211,963



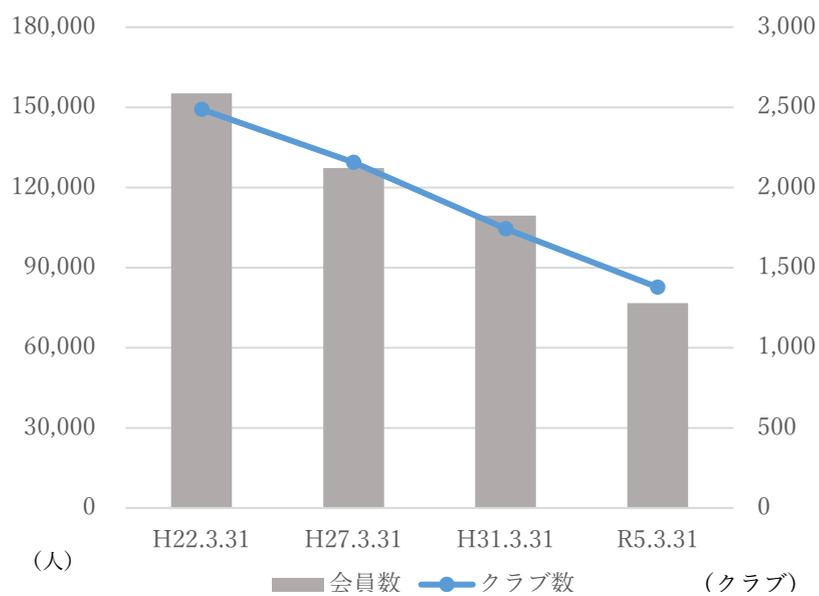
2-2 群馬県の老人クラブの現状

(1) 群馬県内の老人クラブ数・会員数

	会員数(人)	クラブ数
H22.3.31	155,223	2,487
H27.3.31	127,239	2,157
H31.3.31	109,399	1,742
R5.3.31	76,674	1,377

(群馬県老人クラブ連合会 HP から)

(2) 群馬県内の老人クラブ数と会員数の推移



3 老人クラブの実態

3-1 連合会役員聞き取り調査

1 調査実施期間	令和5年9月20日～令和5年11月15日
調査方法	聞き取り調査

2 調査概要

連合会の役員会等の会議に出席し、老人クラブの現状について直接会員の皆さんから話を聞きました。

3 挙げられた意見

- ・会員が亡くなったり施設に入所したりで、どうしても少なくなるので、少なくなった人数分は加入してほしいと思い、前年度人数をキープするまでとみんなで頑張っている。
- ・60代の若い人ほど、加入してほしいが、若い人ほど説得は難しい。
- ・老人クラブの名前が若い人の加入を妨げているのではないか。
- ・リーダーがいなくて解散してしまう老人クラブがあった。
- ・女性が元気、女性が頑張っている老人クラブは、活気がある。
- ・最近では、老人クラブ加入の年齢に達していても、仕事をしているという人が多い。
- ・地区のお祭りに老人クラブが活躍している。世代間交流にもなっている。
- ・地区役員の老人クラブへの関心が低い。
- ・回覧板に会員勧誘についてのチラシを定期的に回している。
- ・他にも高齢者の集まる場があるので、老人クラブに入らないと言われた。
- ・足が悪く、活動に参加できないと言われた。

3-2 老人クラブ会長アンケート

1 アンケート実施期間	令和5年12月11日～令和6年1月10日
アンケート方法	郵送
回答数	129 / 148(回答率 87.2%)

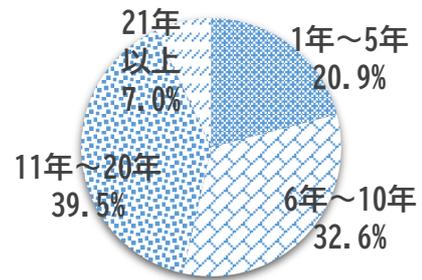
2 アンケート概要

老人クラブの会長に、老人クラブ加入年数、会長年数をはじめ、老人クラブ運営に際し苦労したことや、活動内容等アンケート調査をいたしました。

3 アンケート結果

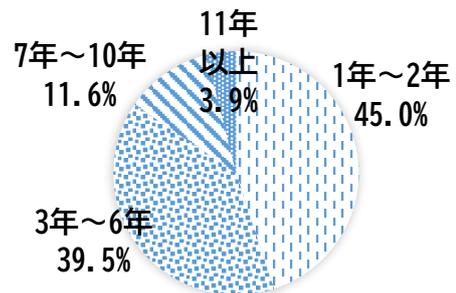
Q1 老人クラブに加入して何年ですか

1年～5年	27人	20.9%
6年～10年	42人	32.6%
11年～20年	51人	39.5%
21年以上	9人	7.0%



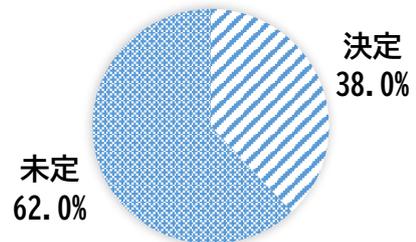
Q2 会長になって何年ですか

1年～2年	58人	45.0%
3年～6年	51人	39.5%
7年～10年	15人	11.6%
11年以上	5人	3.9%



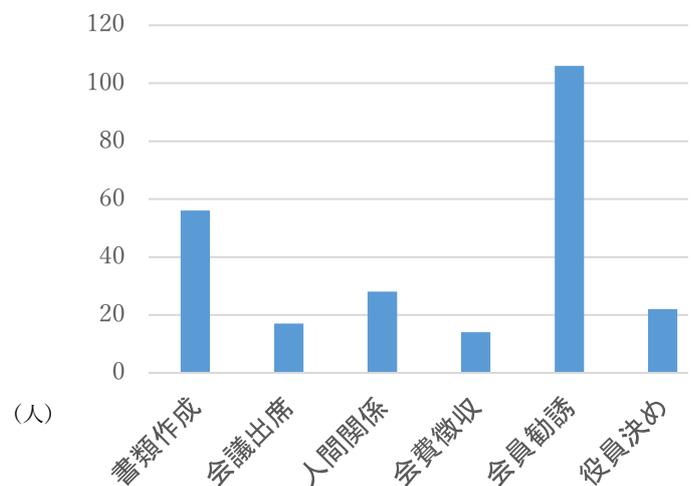
Q3 次期会長は決定していますか

決定している	49人	38.0%
決定していない	80人	62.0%



Q4 会長になって苦労したことはなんですか(複数回答可)

書類作成	56人	43.4%
会議出席	17人	13.1%
人間関係	28人	21.7%
会費徴収	14人	10.9%
会員勧誘	106人	82.2%
役員決め	22人	17.1%



Q5 老人クラブについて思うところをお書きください

- ・加入者が少なく、老人クラブの活動も少ない。60代の若い人が加入したいと思える事業が何かないかと考えている。魅力ある老人クラブでありたいと考えている。
- ・年齢的に足腰が弱っている方が多いので身近でお手伝いできることは手伝ってあげたい。
- ・会員が高齢化し、会員の数も減少して、これからは若い人たちを勧誘して、活性化させる老人クラブになるように努力していければと思っている。
- ・各個人の生活目標も多岐にわたっており、集団での活動よりも個人的な目標を優先した結果、老人クラブの存在意義が問われている現状だと思う。
- ・会員の新規加入より、死亡や健康上の理由で退会される方が極端に多く、5年後には会が存続しなくなると予測される。打開策が見つからず。
- ・会員の高齢化が目立ち、60歳、70歳代の方が会員になってほしいが勧誘しても反応がない。役員を引き受ける人がなく(会長以外でも)、このままだと解散もありうる。

3-3 高齢者実態調査アンケート

1 アンケート実施期間 令和5年12月15日～令和6年1月15日

アンケート方法 郵送

回答数 3,161 /6,000(回答率 52.7%)

2 アンケート調査概要

伊勢崎市に在住の65歳以上の方6,000人に高齢者実態調査アンケートを行いました。そのなかで、老人クラブに関連するものを抜粋します。

3 アンケート調査結果

Q1 老人クラブに加入していますか？

加入している	457人	14.5%
以前は加入していたが現在は加入していない	186人	5.9%
加入したことがない	2,034人	64.3%
不明	484人	15.3%

<年齢別加入状況>

	全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	年齢不明
加入している	457人 14.5 %	21人 3.4 %	81人 10.2 %	131人 17.7 %	114人 22.8 %	64人 23.3 %	30人 21.9 %	16人
以前は加入していたが現在は加入していない	186人 5.9 %	2人 0.3 %	15人 1.9 %	23人 3.1 %	59人 11.8 %	44人 16.0 %	39人 28.5 %	4人
加入したことがない	2,034人 64.3 %	545人 88.5 %	601人 75.6 %	452人 61.0 %	242人 48.4 %	102人 37.1 %	43人 31.4 %	49人
不明	484人 15.3 %	48人 7.8 %	98人 12.3 %	135人 18.2 %	85人 17.0 %	65人 23.6 %	25人 18.2 %	28人
合計	3,161人 100%	616人 100%	795人 100%	741人 100%	500人 100%	275人 100%	137人 100%	97人

Q2 老人クラブに加入していない理由(複数回答可・該当者 2,704 人)

仕事をしているから	585 人	21.6%
健康・体力面で難しいから	515 人	19.0%
特にない	473 人	17.5%
時間的な余裕がないから	394 人	14.6%
加入するきっかけがないから	387 人	14.3%
何をしているかわからないから	311 人	11.5%
興味のある活動内容ではないから	293 人	10.8%
クラブがないから(解散したから)	168 人	6.2%
別の組織・団体に所属しているから	136 人	5.0%
耳が聞こえにくいから	115 人	4.3%
名称が嫌だから	104 人	3.8%
地域の人とかかわりたくないから	101 人	3.7%
その他	102 人	3.8%
未回答	320 人	11.8%

3-4 群馬県内 12 市自治体老人クラブ担当者アンケート

1 アンケート実施期間	令和 6 年 1 月 16 日～令和 6 年 2 月 2 日
アンケート方法	メール
回答数	9/12(回答率 75.0%)

2 アンケート概要

老人クラブ会員数の状況とそれに対する対策等

3 アンケートに関して

老人クラブの会員数は、回答全市で、減少状況にあることがわかりました。それに対する対策も、自治体、老人クラブ事務局(社会福祉協議会等)で行っていることがわかりました。

【対策例】

自治体の対策

- ・老人クラブ活動費補助金の会員数要件の緩和や補助金関係書類の簡素化等
- ・補助金を拡充
- ・定期的に老人クラブの役員会に出席

老人クラブ、老人クラブ事務局の対策

- ・チラシを作成し配布
- ・奨励金配付
- ・個別訪問
- ・75歳以下の会員が5名以上加入した老人クラブに賞状と現金5千円を市連合会から贈呈
- ・再結成、再加入、新設した老人クラブに賞状と現金1万円を市連合会から贈呈

【これから老人クラブを継続していくにあたり、改善すべき点は】

- ・老人クラブ自体がより魅力的な組織になるよう、各クラブの創意工夫や各市連合会の老人クラブに対する適切な助言等が必要であると考えている
- ・役員等担い手不足の解消や会員数増加に繋がるための施策など
- ・老人クラブの周知や活動の為の支援
- ・若手人材の発掘、人材育成、リーダー養成(後継者不足のため)
- ・未加入者へ広く周知(広報誌やポスター掲示)
- ・名称の変更(老人→シニア等)

3-5 令和5年度 未来共創ワークショップ

1 未来共創ワークショップとは

群馬県主催で、持続可能な地域を目指した官民共創の対話の場づくりとして行われた、官民の多様な視点から地域の課題を可視化・整理し官民共創コミュニティを育成するための事業です。

このワークショップは、県・市町村職員・地域住民・関係団体・法人が、地域の課題を解決するために、楽しく自由な発想で解決策のアイデア出しを共創します。

この事業に伊勢崎市では、「魅力的な老人クラブのあり方」というテーマを掲げ、老人クラブのこれからについてたくさんの人からアイデアをいただきました。

2 開催期間 令和5年8月～11月(全3回)

3 挙げられたアイデア(抜粋)

【セニアカーを活用しよう】

老人クラブは、お住まいの町内の公民館や公園、広場を主な活動場所にしていません。老人クラブが、日常的に集まることのできる小地域の範囲で活動しているからです。それは、高齢者になり車に乗れなくなっても歩いて行けるということを示しています。しかし、それでも歩いていくことが困難な人のために、セニアカーの貸し出しをするのはいかがでしょうか。高齢者の行動範囲が広がることは、高齢者の世界が広がることです。

※ セニアカーとは、買い物や散歩など日常の移動手段としてご利用いただけるハンドル型電動車いすのことをいいます。

【FM 放送に参加しよう】

地域の FM ラジオ番組を通じて老人クラブの活動をアピールしましょう。ラジオ番組に積極的に参加したり、制作に携わることにより、活動内容を広く知らしめることができるだけでなく、頭や身体を使って言葉や構成を考えることにより、若返りと責任感と生きがいを見つけることができます。

【ニーズを調べよう】

今、何が流行っているか、何が必要か、何が楽しいか、何に興味があるかを考え、常に新しいものを探し、それを取り入れる柔軟な姿勢を持ちましょう。男性、女性、若い世代、ベテランいろいろな人からの提案を受けることにより、魅力的な活動が生まれ、積極的な参加により活発なクラブ活動ができます。活発なクラブには自然と人が集まります。

4 老人クラブを取り巻く状況

～アンケート、聞き取り調査等からわかったこと

1 ライフスタイルの変化、選択肢の多様化

- ・いろいろなサークルや趣味の講座があり、老人クラブでなくても同じ趣味を持つ仲間や、気の合う仲間づくりができる機会がたくさんある。
- ・定年延長や、経済的理由により、仕事をしている人が増えている。
- ・家族の介護や、自身の病気のため、家から離れられない。
- ・地域とのかかわりや、知らないコミュニティに加入することによるしがらみや、人間関係を煩わしい、面倒と考える人が増えている。
- ・会社勤め等で縛られてきたので、老後は好きな時に好きなことをしたいと考えている人が増加。

2 地域に欠かせない老人クラブの役割

- ・高齢者の生きがいづくりや社会参加の受け皿としての社会的な期待や役割が大きい。
- ・地域包括ケアシステムやコミュニティの互助の担い手として、老人クラブへの期待が大きい。
- ・医療費などの社会保障費の増大に伴い、生活習慣病対策や、健康寿命の延伸のために、身体を動かしたり、頭を使ったりする機会や、地域で支え合う取組が必要のなか、老人クラブに係る役割が大きい。
- ・要支援者や要介護者への地域での見守りの必要性の増加。

5 老人クラブが抱える問題点

1 組織・活動の意義や魅力があいまい

- ・活動がマンネリ化し、魅力やメリットが感じられない。
- ・役割や存在意義、必要性が不明確。
- ・昔ながらの活動内容が多く、若い世代の意見が反映されない。

2 広報活動が弱く情報不足・イメージが固定化

- ・「老人」という言葉のイメージが先行し、はじめから拒絶されている。
- ・老人クラブの活動内容や意義、魅力を発信する活動が弱く、会員以外の人に伝わらない。

3 加入のきっかけがない

- ・老人クラブに加入するきっかけがない。
- ・個人情報への壁があり、新規加入対象者の把握が難しい。
- ・地域の老人クラブが解散してしまっていない。
- ・対面での勧誘が難しい。

4 役員負担増大

- ・役員候補がいない。再登板や長期登板になっている人もいる。
- ・資料づくりや、それに伴うパソコン作業が大変で負担。
- ・役員になると、いろいろな行事に参加しなければならず、自分の時間がとれない。

5 運営体制が脆弱(ぜいじゃく)

- ・運営の仕組みについて老人クラブごとに違うため、他クラブと比較して優れた点を共有できず、問題点を解決しづらい。
- ・役員の仕事には、マニュアル化することが難しい問題が多く、新規役員になると、問題解決に多くの時間と労力が必要になる。

6 地区との連携の困難

- ・高齢者や児童の見守りなど、地域社会からの期待に、応えられない場合もある。
- ・特定の人のみ負担が増大すると、そのことが原因で揉め事がおきることもある。
- ・会員勧誘に積極的に対応してもらえない。

7 新規加入の減少や高齢者の退会による会員減少

- ・60代の新規加入が少ない。
- ・ペーパー会員の増加。

6 老人クラブ活性化への取り組み

老人クラブの活性化に向けて、以下の取り組みを行っていきます。

6-1 連合会・伊勢崎市社会福祉協議会の取り組み

1 会員を増やすために

(1) 地道な勧誘活動

老人クラブ加入の理由で一番多いのは「誘われたから」、未加入の理由に、「誘われたことがないから」。ここからわかることは、まずは誘うことです。興味があってもきっかけがないと、前に進むことが難しいのです。

日頃の会員の地道な声掛けが、大きな成果につながります。

(2) どのような活動をしているか明確にする

老人クラブがどのような活動をしているのか明確にすると、誘いやすくなります。

また、そのときに、恒常的に行う活動のほか、若い世代や女性の意見も取り入れ、新しい活動や珍しい活動も取り入れる柔軟な姿勢も必要です。

(3) 老人クラブの活動をPRする

老人クラブでどのような活動をしているかわからない、また、お住まいの地域の老人クラブを知らないという人が多いことから、老人クラブのチラシや会誌を作成し勧誘の際に配るほかに、地域の公共施設やチラシを置いてくれるところに設置することも必要です。

興味のある活動から体験参加という方法もあります。人間関係が作れば、加入の確率も上がります。

老人クラブに入会して地域のなかでつながりができると、日常的に支え合い、確認し合い、助け合いになるだけでなく、災害等の緊急事態には大きな力となります。このような絆が築けるのも老人クラブのPRポイントです。

(4) 行政区の行事に参加する

老人クラブは行政区とつながりが深く、老人クラブ活動以外にも行政区の行事に積極的に参加することにより、老人クラブがどのようなクラブか知ってもらい理解してもらうことができます。児童の見守り活動は、児童の安全を願う保護者だけでなく、地域の人や、近くを通過するドライバーにも感謝され、それが会員の生きがいややりがい、地域とのつながり、世代間の交流など

にもつながります。

(5) 多彩な活動メニューづくり

いつも同じ内容の活動のみ行うのではなく、時々のニーズを調べて活動内容の見直しを図りましょう。未加入の方や若い世代の方に興味を持たれるだけでなく、会員全員で考えることにより、会員の意識が高くなり、一つの目標に向かい会員同士の絆も強くなり、活動のマンネリ化防止にもなります。

2 老人クラブ活性化のために

(1) 会員の健康づくりを第1の目標にする

会員が健康でないと、クラブも健康ではなくなります。会員の健康状態がよくとクラブも活性化します。つまり、まずは会員の健康づくりをクラブの大きな目標のひとつにすることです。健康状態は、人それぞれに違ふし、体力も人によってさまざまなので、様々なひとに対応できるよう、内容を固定化しないように工夫しましょう。

老人クラブの活動で、運動する習慣を身につけることで、健康寿命を延ばすことが大切です。

健康づくりは、運動することだけでなく、頭を使うこと、反射神経を養うこと、また、口腔内を清潔に保つことや、薬の専門家に薬の話聞くこと、法律の専門家に相続の話聞くことなど、専門家から話を聞くような機会を設け、新しい知識を得ることも大切な健康づくりになります。

老人クラブの取組で、健康寿命を延伸させ、介護予防、認知症予防に努め貢献することにより、会員の健康維持だけでなく、地域における老人クラブの存在意義を高めることになります。

(2) 楽しいクラブにする

老人クラブの活動が楽しくなければ、続きません。そして、楽しくなくて辞めるような人がいた場合、新たに加入する人も現われません。

特定の人だけが楽しめる活動だけでなく、多くの人を楽しめる活動や、いろいろな人が集まる機会を設けることで、活気があるクラブになります。

人が人を集める循環ができると、新しい人が入りやすくなり、会員増加につながります。

そのためには、どのような老人クラブが楽しいか、会員全員で考え、実践していきましょう。それが、会員ひとりひとりの老人クラブへの愛着と意識の向上につながります。

(3) 役員負担を軽減する

役員に係る仕事の負担から、役員を引き受けてくれる人がいない後継者不足に悩んでいる老人クラブも少なくないようです。補助金に係る関係書類の作成や、複雑な人間関係の解決を求められるとか、役員負担は計り知れず、とても一人ではやりきれなく、その様子を見ると自分にはできないという気持ちから、役員をしなければならないなら、クラブを辞めると言い出されてしまうようです。会員減少を加速させないためにも、仕事を分担し、一人に負担がかかることのないようにすることが必要です。

(4) 女性会員を活用する

老人クラブ会員は約6割が女性、約4割が男性になります。女性会員は、友愛活動や社会奉仕活動など、老人クラブの本来の活動で大いに活躍しています。また、女性同士の横のつながりも老人クラブを活性化させる強みになります。

女性会員が楽しく活動できるクラブであれば、人が人を呼び新規会員の加入にもつながっていきます。

(5) 60代の若手世代を呼び込む

現在、どの老人クラブも、60代の会員の入会が少なく、これによりクラブの存続が危ぶまれているという状況があります。今後の老人クラブの存続を考えると、60代の若手世代の加入促進が必須です。

そのためには、若手世代が興味をもつ活動内容である必要があります。若手世代が興味を持つ活動内容は、若手世代に聞くのが一番早くて確実であることから、若手世代が何に興味があり、何の活動をしたいのか、若手世代の意見を反映させた活動内容を始めなければなりません。

また、少数派の若手世代会員が孤立しないように、連合会単位で、若手委員会を開催し、情報交換の場を設けるのも必要です。

(6) 地域を支える

今までも老人クラブでは、友愛活動は活動の大きな一つになっていましたが、これから高齢化社会が進むにあたって、その取り組みはますます重要になります。

一人暮らしの方や、高齢者世帯が増えるにつれ、声掛けや話し相手、相談相手、日常的な支援を地域で行う必要がでてくるなか、老人クラブの友愛活動は地域社会の担い手の一つとして重要な役割を担います。そしてそれは、会員の健康増進だけでなく、地域の高齢者による支援をひろげることにより、会員増強への弾みにもなります。

地域での支えあいに積極的にかかわることにより、いままでの活動が公の

活動であったという位置づけが強固になり、会員の意欲向上にもつながります。

(7) 老人クラブの名称は、皆さんが愛着をもって呼べるものにする

老人クラブという名称の「老人」という言葉に抵抗を感じる人が、少なからずいます。老人クラブの根拠が老人福祉法であること、「老人クラブ」という名前の認知度の高さなど、老人クラブという名前に代わるものがなかなかない状況にあります。

しかしながら、「老人」という言葉があることで、加入をためらうようであるならば、そこは、老人クラブを愛称のようなもので呼ぶことも一つの手であります。地域の老人クラブなどは、「●●会」や「○○クラブ」など、会員の愛着がもてるよう柔軟に対応することが必要です。

6-2 伊勢崎市の取り組み

(1) 広報活動の充実

市の広報紙や市のホームページ、友愛クラブだより(連合会機関紙)、地区公民館だよりなど、いろいろな手段を用いて老人クラブやその活動の紹介をすることにより、多くの人に老人クラブのことを知ってもらいます。

(2) 会員勧誘の工夫の紹介

会員を勧誘するためのコツや工夫などを紹介し、会員拡大の際の手がかりになるよう周知します。

(3) 役員の仕事の簡素化のための手助け

役員の負担となっている、書類作成などの事務仕事が負担なくできるよう、作成の相談の機会を設けます。また、書類作成に欠かせないパソコンや、連絡手段に役立つスマートフォンなどを活用し、事務の簡素化に役立てられるよう、アドバイスを行います。

(4) 補助金の支給

老人クラブの活動を支えるため、補助金の支給を引き続き行います。

おわりに

老人クラブは、共通して会員が増えないという悩みを抱えています。これまでも確実にクラブ数、会員数の減少が進み、近い将来には存続の危機を迎えようとしています。10年後、20年後に老人クラブが存続していくためには何ができるか、この課題に地域の誰もが向き合わなければなりません。

加入したい、もしくは、加入させたいと思う魅力的な老人クラブの運営は、老人クラブを長く続けることに繋がります。それは、車に乗れなくなっても歩いて通える距離に、該当の年齢になれば誰でも加入ができる老人クラブがあるということになります。言い換えれば、地域に住む仲間が互いに支え合える環境が整っているということになり、このことが、地域での老人クラブの存在意義を示すものであり、これからの超高齢社会に必要なものであります。

今回、この「伊勢崎市老人クラブ活性化への提言」を作成するにあたり、多くの老人クラブ会員の皆さんをはじめとして、たくさんの皆さんに話を聞く機会をいただき、皆さんの思いを知り、その思いから、問題点や解決のための手段を考えることができました。ご協力いただきどうもありがとうございました。

問い合わせ

伊勢崎市役所 長寿社会部高齢政策課

電話 0270-27-2752

社会福祉法人 伊勢崎市社会福祉協議会

電話 0270-25-4546